



	機能	詳細
インプット	RGB画像	RGBセンサーで取得した垂直画像をJPGフォーマットでインポート
	事前に処理したマップ	他のPix4D製品で処理したオルソモザイク(GeoTIFF)をインポート
	マーカー	マーカー(点、線、ポリゴン)を作成またはインポートし、プロジェクトに重ね合わせる(GeoJSON、KML、Shapefileでインポート)
ツールと機能	使いやすいインターフェース	公安および人道支援のプロと開発した簡単で直感的なインターフェース
	軽量かつパワフル	処理にインターネット接続やクラウドを必要とせず、ハイスペックでなくとも現場のノートパソコンで作業できる手軽さ"
	高速マッピング	空撮画像から高解像度の2Dマップを数分で生成し、現場のオフライン環境でも処理が可能
	GPUによる高速マッピング	適切なGPUが利用できる場合、標準的なCPUに比べて処理速度が大幅に向上
	米国国立グリッド	USNGコードまたはGPS座標のいずれかによって、特定のセルに移動する機能を備えた米国国立グリッドマップオーバーレイ
	マーカーツール	対象地点に点、線、面積マーカーを様々な色で描いてエクスポート
	計測ツール	正確な出勤計画のために素早く距離や面積を計測。計測結果を常時表示する場合、マーカーとして保存
	比較ツール	異なるマップを分割画面またはダブル画面で比較
	PDFレポートエクスポートツール	PDFレポートエクスポートツールを使って全てのプロジェクト関係者とマップを共有し、円滑な連携をとる
	エクスポートツール	プロジェクトや個々のレイヤーを、画像サイズや形式を調整しながらコンピュータにエクスポートして利用可能"
	PIX4Dcloudでの共有	PIX4Dreactのアウトプット(オルソモザイク、DSM)を直接PIX4Dcloudにアップロードして共有可能
アウトプット	オルソモザイク	長期的なドキュメンテーション、およびスムーズなコラボレーションのために直感的な現場状況の再現
	数値表層モデル	洪水に脆弱な地域や現場の行動を支援するのに標高データを活用(GeoTIFFでエクスポート)
	マーカーおよび計測	関心エリアに注釈を加えることで、より価値のある、実用的な情報を伝達(GeoJSON、KMLまたはShapefileでエクスポート)
	PDFレポート	ロゴや連絡先を入れてカスタマイズしたプロジェクトレポートを簡単に共有可能(PDFでエクスポート)
	スナップショット	注釈を含ませることのできる現状のマップビューのスナップショット(JPEGまたはPNGでエクスポート)
言語	言語オプション	英語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ウクライナ語で利用可能

### ハードウェアの仕様



**CPU:** クアッドコアまたはヘキサコアのIntel i5(またはそれ以上のもの)



**HD:** SSD推奨される



**RAM:** 8 GB RAM (またはそれ以上)



**GPU:** 2GB RAMの内蔵または専用GPU (推奨:6GB RAMのGeForce GTX GPU)



**OS:** Windows 10/macOS Catalina (10.15) (もしくはより新しいもの)